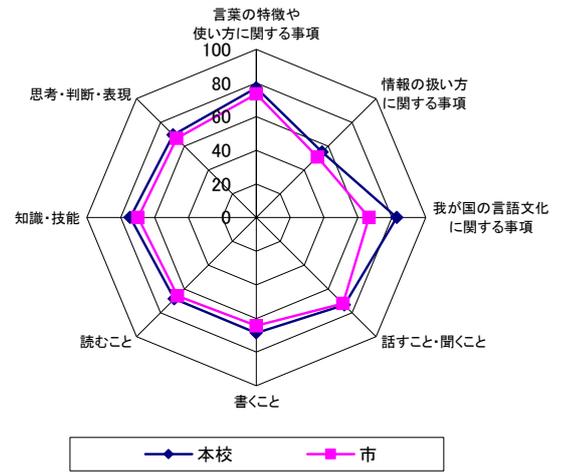


# 宇都宮市立横川東小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	77.1	73.5	74.4
	情報の扱い方に関する事項	55.0	51.0	51.5
	我が国の言語文化に関する事項	82.9	66.5	68.8
	話すこと・聞くこと	73.6	72.3	73.7
	書くこと	68.6	64.3	66.6
	読むこと	68.3	65.8	64.9
	観点別	知識・技能	74.4	69.8
思考・判断・表現		69.5	66.5	67.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

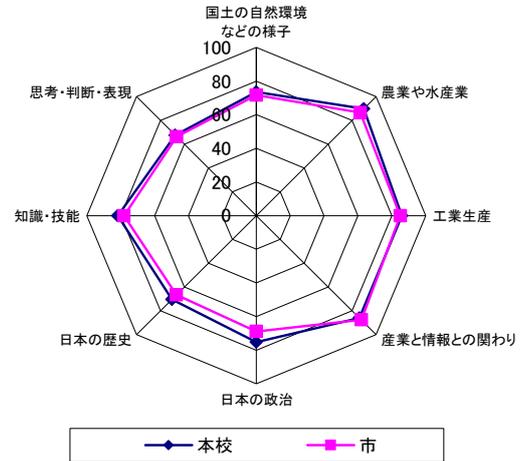
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は、市の平均を上回っている。 ○三字の熟語の成り立ちについての問題において、市の平均を18.8ポイント上回っている。 ●敬語を正しく使う問題においては、市の平均をやや下回っていて課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・ドリルやプリント学習などで定着を図るとともに、日常生活の中で、場や相手に応じた言葉遣いができるように支援していく。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は、市の平均を上回っている。 ○情報と情報との関係について理解し、目的に応じて文章を簡単に書く問題については、市の平均を6.4ポイント上回っている。	・複数の情報を比較したり、関連付けて考えたりする学習を多く取り入れていく。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、昨年度同様、他の領域より高く、市の平均を上回っている。 ○和語・漢語・外来語についての問題において、正答率が82.9%と、市の平均を16.4ポイント上回っていて、理解できている。	・引き続き、和語・漢語・外来語の由来や、特徴の違いを理解できるよう、文章を比べて読んだり、書き換えたりする活動を取り入れていく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均をやや上回っている。 ○インタビューの話の内容を捉える設問では、96.4%と理解できている。また、インタビューの仕方の工夫を選択する設問では、80.2%で市の平均を3.2ポイント上回っている。 ●自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、記述する設問では正答率が44.1%となっており、課題がみられる。	・日頃からペア学習やグループ学習を取り入れ、自分の意見を伝え合う活動を継続して行っていく。 ・話すだけではなく、聞くことにも重点を置き、相手の話に対して質問をするなど、自分の考えを深めることができるようにする。 ・意見の伝え合いだけにならないように、観点を示した上で話し合い活動を行うようにする。
書くこと	平均正答率は、市の平均を上回っている。 ○目的に応じて文章を簡単に書いたり、指定された長さで書いたりすることができている。 ●2段落構成で文章を書く問題では、正答率が市の平均を下回っており、段落の役割についての理解に課題がある。	・どのように段落分けがされているか意識させるようにし、段落の役割について理解できるようにしていく。また、自分の考えや意見を書く学習では、段落や文字数を指定して文の構成を考える活動を取り入れるようにする。
読むこと	平均正答率は、市の平均を上回っている。 ○人物像を具体的に想像する問題では、正答率が91.9%と理解できている。 ●文章全体の構成を捉えて、要旨を把握する問題では、市の平均は上回っているものの平均正答率が45.0%と課題がみれる。	・読書活動を多く取り入れ、幅広い内容の本に触れる機会を増やしていく。 ・文章の内容を読み取り、要旨をまとめる学習に繰り返し取り組ませる。

# 宇都宮市立横川東小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	73.5	71.6	69.6
	農業や水産業	89.8	86.7	83.7
	工業生産	85.9	85.0	79.5
	産業と情報との関わり	86.0	87.7	77.4
	日本の政治	75.2	68.9	71.7
	日本の歴史	70.4	66.7	66.3
観点別	知識・技能	81.7	78.0	76.7
	思考・判断・表現	67.7	66.4	63.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

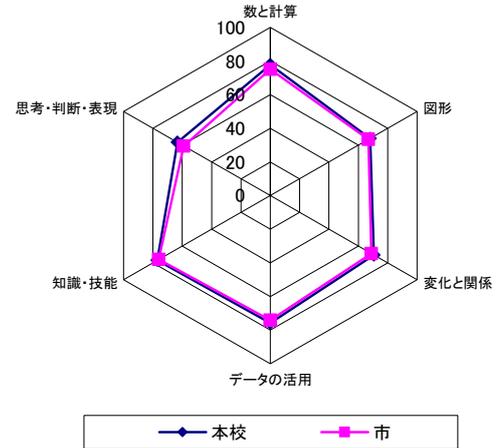
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	<p>平均正答率は、市の平均を上回っている。</p> <p>○世界中の国土の内容において、日本の周辺の海洋名に関する設問では、市の正答率が8.2ポイント上回り、95.5%と高い正答率である。また、オーストラリアの位置と国旗に関する設問においても市の正答率が2.7ポイント上回っている。</p> <p>●日本の主な地形(湖)の名称に関する設問において、正答率が73.0%で市の正答率を1ポイント下回っている。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>・授業の導入や調べ学習の中で、地図帳を積極的に活用し、国の特徴や国土の様子、山や湖等の名称について、その都度確認していく。また、グラフや表を基に考えさせる場を意識的に多く設定し、資料を活用する技能を高めていく。</p> <p>・海外の位置や国旗のみに留まらず、それぞれの国を身近に感じられるような情報を提示することで国名、国旗、情報等が一体となって理解できるようにしていきたい。</p>
農業や水産業	<p>平均正答率は、市の平均を上回っている。</p> <p>○米の生産が盛んな地域についての理解をもとに、資料を判断する設問の正答率が市の正答率を2.3ポイント上回っている。</p> <p>○水産物の物流の工夫について、資料をもとに判断している設問の正答率が市の正答率を1.9ポイント上回っている。</p>	<p>・資料を読み取り理解することはできているので、資料から分かったことや考えたことを文章でまとめたり、伝え合ったりする活動を取り入れることで学習をさらに深めていきたい。また、複数の資料を関連させながら読み取ったり、表現する活動を取り入れたりすることで、思考力・判断力・表現力を高めていきたい。</p>
工業生産	<p>平均正答率は、市の平均をやや上回っている。</p> <p>○日本の工業の特色について、資料をもとに表現する設問では、市の正答率を5ポイント上回っている。</p> <p>●工業製品の分類に関する設問においては、正答率は、91%で市と比べて1.2ポイント低くなっている。</p>	<p>・予想を立てて学習に取り組んだり、考えたことを表現したりする活動を授業に取り入れ、理解力を高めていく。また、工業製品を身近に感じながら課題を追究できるよう、問いを工夫したり、工場見学等の体験的活動を取り入れたりする。</p>
産業と情報との関わり	<p>平均正答率は、市の平均を下回っている。</p> <p>●さまざまなメディアの特徴についての設問の正答率は、95.5%と高いが、市の正答率をやや下回っている。</p> <p>●情報の発信と受信の注意点について考える設問では、正答率は76.6%で市と比べて2.5ポイント下回っている。</p>	<p>・さまざまなメディアの特徴を具体的に理解させるとともに、情報の発信と受信について身近な生活と関連付けながら、その扱い方や注意点について話し合わせることを通して、より理解が深まるように指導していく。</p>
日本の政治	<p>平均正答率は、市の平均を上回っている。</p> <p>○天皇の地位や国民の義務、内閣の働きについての設問の正答率は、市の平均と比べて高い。特に内閣の働きについての設問の正答率は、市と比べて16.2ポイント高くなっていて、日本の政治や日本国憲法についてよく理解できている。</p>	<p>・法やきまりがわたしたちの生活とどう関わっているのかについて身近な資料から詳しく調べたり、考えたことを話し合ったりすることを通して、わたしたちの生活と政治は深い関わりがあることを具体的に理解できるように指導していきたい。</p>
日本の歴史	<p>平均正答率は、市の平均を上回っている。</p> <p>○縄文時代から平安時代、安土桃山時代から江戸時代の内容の設問の正答率は、どれも市と比べて高い。特に大王に関する設問の正答率は市の平均を18ポイント上回っている。</p> <p>●元との戦いの理解をもとに、防塁について表現する設問の正答率は、34.2%で課題が見られる。</p>	<p>・各時代の特徴をまとめるとともに、時代ごとの制度や権力者、思想の変化等を比較検討し、話し合う活動を取り入れ、歴史的事象の意味について時代のつながりを意識しながら理解を深めていく。そして、まとめや振り返りを充実させ、自分の言葉で表現する機会を増やすことでより知識を深めさせたい。</p>

# 宇都宮市立横川東小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	77.7	75.1	75.8
	図形	68.0	66.8	68.3
	変化と関係	70.6	68.8	65.0
	データの活用	75.8	74.1	63.6
観点別	知識・技能	77.0	76.1	75.8
	思考・判断・表現	63.3	59.0	51.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

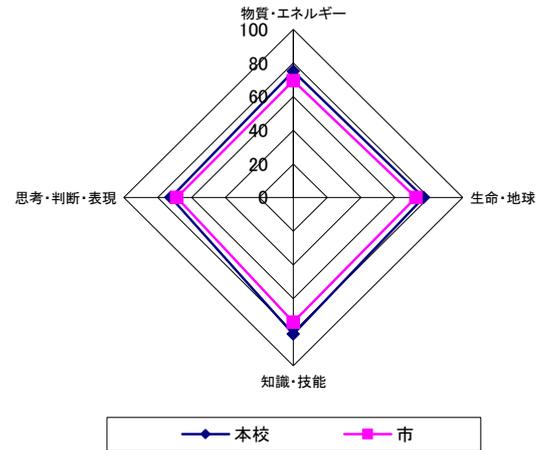
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市の平均を上回っている。</p> <p>○二つの文字を使って表された式で、一方の文字の値から他方の文字の値を求める設問では、市の正答率を大きく上回った。</p> <p>●分数×分数(約分あり)の計算をする設問では、市の正答率を下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝の学習や授業中、家庭学習におけるプリント、ドリル学習や自主学習などで計算の反復練習を継続して実施し、計算力のさらなる向上に向けた取り組みを行っていく。</li> <li>分数の意味や表現、既習の計算などをもとに図や式などを用いて多面的に考えることができるようにする。</li> </ul>
図形	<p>平均正答率は、市の平均をやや上回っている。</p> <p>○直径が与えられた円の面積を求める設問では、市の正答率を大きく上回った。</p> <p>●合同な三角形を作図する設問では、市の正答率を大きく下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル教科書やタブレットなどを利用し、より理解しやすい授業を目指して、指導の充実を図る。</li> <li>定規とコンパスを用いた作図の反復練習を継続して実施する。</li> </ul>
変化と関係	<p>平均正答率は、市の平均を上回っている。</p> <p>○速さと道のりから時間を求める設問では、市の正答率を上回った。</p> <p>○基準量と比較量から割合を求める設問では、市の正答率を上回った。</p> <p>●表から面積と数の割合を求め、どのにわとり小屋が最も混んでいるかを考察する設問では、市の正答率を下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常の事象における数量の関係に着目し、図や式などを用いて数量の関係について考えることができるようにする。</li> <li>正答率を向上できるように、算数の補助問題では、今後も継続して計算だけでなく数学的な考え方のスキルアップを図る問題にも多く取り組ませ、思考力を高めていきたい。</li> </ul>
データの活用	<p>平均正答率は、市の平均を上回っている。</p> <p>○ドットプロットから最頻値を求める設問と平均からおよそ何歩か求める設問、道のりの平均から答えを求める設問では、市の正答率を上回っている。</p> <p>●ドットプロットから中央値を求める設問と度数分布表に表す設問とOを含める平均を求める設問が市の正答率を下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>つまずきを解消するために、習熟度別学習を生かして個に応じた児童の充実を図る。</li> <li>データの見方については、「まなびリンク」のツールを活用したり、補助プリントで反復練習をしたりして、データの処理の仕方やデータの見方が理解できるように指導の工夫改善を図る。</li> <li>朝の学習の時間を使って、前の学年の復習をする時間を取る。</li> </ul>

# 宇都宮市立横川東小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	75.1	69.5	65.2
	生命・地球	76.9	72.3	70.1
観点別	知識・技能	81.2	74.0	70.7
	思考・判断・表現	72.2	68.7	65.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>平均正答率は、市の平均を上回っている。</p> <p>○「物の燃え方」に関する設問は、市の平均を上回っている。</p> <p>○「水よう液の性質」に関する設問は、市の平均を上回っている。</p> <p>●「物のとけ方」の学習の「水に溶けた食塩とミョウバンを取り出す方法について」の設問は、市の平均を下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察や実験を行う際は、理解しやすく、また、実感を伴って行えるように、実験方法や道具や装置を工夫する。また、学習環境の整備や実践用具・器具の充実を図っていく。</li> <li>・ノート記述や話し合い活動を通して、結果から分かることを考察し、自分の言葉でまとめる機会を積み重ねることで思考力を高めていきたい。</li> </ul>
生命・地球	<p>平均正答率は、市の平均を上回っている。</p> <p>○「流れる水のはたらき」「動物のからだのつくりとはたらき」「植物のつくりとはたらき」に関する設問では、全て市の平均を上回っている。</p> <p>●食物連鎖に関する設問や、月と太陽の位置関係に関する設問では、市の平均を下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も視聴覚教材やICT機器等を活用しながら、できるだけ実感を伴った学習内容の理解を促していく。</li> <li>・実験の目的の明確化と予想・結果・考察・まとめという一連の思考過程を大切にしながら理解させるとともに、身の回りで起こる事象と結び付け、考えさせるようにしたい。</li> </ul>

## 宇都宮市立横川東小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・主体的・対話的で深い学びの授業改善	・問いをもたせたり、興味関心を高めたりする導入の工夫 ・自分の考えを書く活動の習慣化と自分の考えをもたせるための支援 ・主体的な学びにつながるICTの効果的な活用	・「勉強が好き」と答える児童の割合は、どの学年も市の肯定割合と同程度を上回る結果であった。「自分なりに分かりやすくノートなどにまとめている」の肯定割合は、学年によって差はあるが、おおそ市の肯定割合を上回っている。「パソコンを使ってまとめたり、調べたことを伝えたりすることができる」の肯定割合はほとんどの学年で市の平均を上回っている。
・基礎・基本の確実な定着	・AI型学習ドリルなどICTを活用した個に応じた指導の充実 ・朝の学習(週3回15分間)の実施 ・学期ごとの漢字・計算オリンピックの実施	・国語の漢字等を含む「言葉の特徴や使い方に関する事項」や「書くこと」では、市の平均を上回っている。算数の「数と計算」でも市の平均を上回る結果であった。
・家庭学習の習慣化	・発達段階に応じた家庭学習の内容や分量の検討と指導 ・「家庭学習の手引き」の効果的な活用	・上学年では、平日30分～1時間程度家庭学習に取り組んでいる児童が多い。「自分で計画を立てて家庭学習に取り組んでいる」の肯定割合は、ほとんどの学年で市の平均を上回っている。

### ★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・国・県・市の調査において、パソコンを使ってまとめたり、調べたことを伝えたりすることができる」の肯定割合はほとんどの学年で市の平均を上回っており、ICTの効果的な活用に取り組んできた結果と考えられる。しかし、「自分の考えが伝わるように工夫して文章を書いている」「自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように書いている」の肯定割合は国や県を下回っている。次年度は、振り返りや感想など自分の考えを書く活動の習慣化を図るとともに、自分の考えを明確に表現する力を養うためにペア学習やグループ学習を取り入れ、教科横断的な視点に立った授業の工夫に努めていく。

・国語や算数の知識・技能分野の平均正答率は、国・県・市を上回っており、基礎基本となる学力はおおむね身につけていると考えられる。引き続き、「朝の学習」の取り組みやICTを活用した個に応じた指導の充実を図り、基礎基本の徹底に努めていく。

・国・県・市の調査において、平日30分～1時間程度家庭学習に取り組んでいる児童が多く、家庭学習の習慣が定着してきている。次年度も家庭と連携を図りながら、より一層の充実を図っていく。